

未来投資会議（第4回）後の
石原経済再生担当大臣記者会見要旨

- 日 時 : 平成29年1月27日（金）18:50～18:55
- 場 所 : 中央合同庁舎8号館1階S101・103 会見室

1. 冒頭発言

第4回「未来投資会議」の概要を申し上げます。

本日は、「企業関連制度改革・産業再編」、「規制改革・行政手続の簡素化・IT化の一体的推進」、そして、「実行計画」・「報告書」・「今後の検討の方向性」について議論しました。

まず、参加者から、次のような御説明がありました。

株式会社経営共創基盤の富山代表取締役から、日本の構造的な経営課題の解決に向けて、トップ人事の客観化・透明化、OB ガバナンスの排除、社外の目の有効活用、投資家の建設的対話力の抜本的向上などが日本の企業を成長させていく上で非常に大切であるというお話をいただきました。

次に規制改革関係ですが、アズビル株式会社の曾禰社長から、ビッグデータやセンサーの活用により、飛躍的に安全で効率的なプラントの保安につながるため、制度面で後押しすべきことなどについて御要望がございました。すでにシステム化されておりまして、このようなものができているのかと感動でため息がでるようなものでした。

次に、企業関連制度改革・産業構造改革会合の小林会長から公益資本主義のあり方について、これまでの議論の御報告がありました。

富山さんと視点が似ているところがございまして、我が国企業の「稼ぐ力」が低い主因は、我が国の経営者が、必ずしも果敢な経営判断が得意でない、特に他社で仕事をしていくということがほとんどなく、採用されてそのまま自分の会社で社長になるということにある。これを改善するための御提言をいただいたところでもあります。また、規制改革・行政手続・IT化の一体改革の先行的な取組4つをご紹介します。

最後に、関係閣僚・民間議員からの御発言の後、総理から御発言がございました。詳細は、後ほど事務方から報告させます。

本日の会議のポイントについて、私から以上です。

2. 質疑応答

（問）今日の会議の中で、日本企業の収益性向上に向けて、どのような課題があるか議論

されたと思いますが、大臣は、日本再興戦略の取りまとめに向けて、どのような部分が重要だとお考えですか。

(答) 富山さんと小林会長のお話と重なりますけれど、「稼ぐ力」ですね。1990年と2015年くらいを比べると、株価で見てもアメリカの株価指数は7倍になったけれども、日本は、今日は少し上がっていますけれども、0.7倍程度です。こういう状況の改善に向けて、安倍内閣になって、コーポレートガバナンス改革というものをスタートさせ、今では社外取締役が8割9割の企業に採用されるに至った。そういう中で、今日ある民間議員の方から、ヘッドハンターから、人がいなくて社外取締役になってもらいたいと言われたときに、忙しいからと断ったところ、2時間だけでもいいですからと言われたとのお話がありました。それでは実質的な社外取締役の意味をなさない。このように現実問題として、コーポレートガバナンス改革を進めていく上で、社外取締役となり得るべき人がなかなかいないという事実も明らかになりました。

何が言いたいかと言うと、形式的ではなく実質的に機能するということが個社レベルで起こっていかなければ、何の意味もなさないということです。ROEを4%から8%にすれば良い、社外取締役に女性がいれば良いということではないと強く感じました。企業が資本市場からのメッセージを的確に据えて現状を変革していくために、経営者が果敢に意思決定できる環境を作っていく。代表取締役相談役などという人がいる企業は、世界中になかなかないんですね。どうしてそういうことになっているのか、日本の企業風土もしっかり見ていかなければなりません。今、東芝がすったもんだしています。個社とは別に一般論としていうと、採算部門を別会社にして不採算部門を切るということで、当然と言えば当然で、本来であれば悪くなる前に手を打てばこういうことにはならないと思いますし、前の社長が鳴り物入りでつくった部局を現社長が切ることはなかなか大変だとも聞きます。そういう状況も改善しなければならないのではないかと、会合に参加させていただきまして、感じているところです。